

●シリカゲルはマイクロキャビネットにどれくらい入れればいいのですか？

→湿度環境や、扉の開け閉め頻度にもよりますが、一度に大量に入れても過乾燥となりフィルムにとってよくありませんので、少しずつ（目安として3～5袋/1引出し）いれて、湿度計にて湿度をチェックしながら調整、入れ替えしてください。

※マイクロフィルムに含まれる水分量も勘案した詳細は、当社の参考文献コーナー「シリカゲルについて」をご覧ください。

●シリカゲルはどれくらい水分を吸うのですか？

1袋（100g）で20～25gほどの水分を吸収します。ブルーの粒がピンク色になると、そろそろ交換時期を示します。

●シリカゲルはどれくらいの頻度で入れ替えればいいのですか？

キャビネットの置かれた環境次第なので明確な回答ではありませんが、どんなに少なくとも1年に1回以上は入れ替えましょう。時期としては梅雨前（4月～5月）頃を推奨します。まずは現状の環境（温度・湿度）を把握することが大切です。温湿度計やデータロガーを使って年間・昼夜・曜日ごと等の温湿度の推移を把握しましょう。

●数日でピンク色になってしまったのですが、もう交換しなければならないのですか

温湿度環境によりますが、湿気の多い時期や最初に投入したときなどは数日で水分を吸湿してシリカゲルが飽和状態になります。庫内が適正な湿度になっていればすぐに交換しなくても逆に出すことはありません。

●キャビネットの開け閉めが頻繁なのですが

キャビネットの引き出しを開けると庫内の空気と庫外の空気が入れ替わってしまいます。庫外（室内）の空気が湿度を帯びていて、開け閉めが頻繁の場合は、シリカゲルは早く飽和状態になります。湿度計で庫内の湿度をチェックして適宜乾燥剤を入れ替えてください。あまりに開け閉めが頻繁の場合は、シリカゲルを入れるよりも、除湿器などで室内の湿度を調湿するほうが現実的と言えるかもしれません。

●シリカゲルとゼオライトどちらを使用したほうがいいでしょうか

フィルムの酸性劣化が始まっていて酸っぱい臭いがする場合は、ゼオライトにて酸を吸着することが効果的です。ただし、ゼオライトは強力乾燥剤という性質もあり、湿度が高い空間に入れると最初に水分を吸ってしまい、酢酸ガスを吸着する能力が低くなるので、シリカゲルと併用すると効率的です。

●なぜ酢酸を吸着したほうがいいのか

フィルムが放出した酸によってさらに劣化が進んだり、他のフィルムへ影響を与えないために、酸をとることが重要です。

●上記の場合、どれくらいの数量入れればいいのか

環境にもよりますが、まず2~3個シリカゲルを入れていただき、翌日くらいにゼオライトを2~3個入れてみて、ニオイの変化を確認し、様子を見てみてください。ゼオライトは、性質上、色などの見た目や重さなど物理的に飽和したことが分からない素材です。においの変化で、吸った・もう吸わなくなったを区別してください。

●冬場は臭いを感じなかったのに、あたたかくなって臭いが強くなった気がする

気温が上がると酸が発生しやすく、また、ニオイが感じやすくなることがあります。

A-DStripsにて酸の発生量を調査しましょう。

●ゼオライトをいれていますが、ニオイが取れていない気がするのですが・・・

酸性劣化したマイクロフィルムからは絶えず酸が放出されているので、ゼオライトで吸着してもまた新たに酸が出ているためにニオイが消えた気がしないということがあります。また、酸は他の物質に移行しやすい性質（アシッドマイグレーション）をもっています。フィルムの包材（紙帯や紙箱等）の紙繊維に染み込んだ酸はなかなか取ることができませんので、包材を交換してからゼオライト等を入れた方が効果的です。また、キャビネットや部屋の壁にもニオイが染みついていますので、換気・水ぶきなど清掃も重要です。また、フィルムから出る酢酸以外に、紙箱が劣化したニオイ、箱の印刷のインクが変質して発生させているニオイ、キャビネットの塗装やゴムパッキンの劣化のニオイなど、様々なものが混ざり合っている場合もあります。

●同じ時期に作成したフィルムで、劣化しているものとしていないものがあるのですが

よく利用されているフィルムは、空気に触れることで自然と放散され、ほとんど利用されないフィルムはガスがこもってしまっていて劣化する、ということがあります。

放酸作業（フィルムを巻き替えることで空気に晒し放酸する）も効果がありますが、著しく劣化が進んだものや、湿度の高い環境で行うと逆効果の場合もありますので、ご注意ください。

●100個（80個）もいらないのですが、ばら売りはしていますか？

恐れ入りますがバラ売りはしておりません。使い残ったものはしっかりと封をして高温多湿を避けて保管し、半年を目安に使い切ってください。